

会員だより

# 「和歌山県の 災害復旧について」



和歌山県県土整備部  
河川・下水道局河川課 防災班  
副主査 大森 健作

## 1. はじめに

### (1) 和歌山県の概要

本県は、本州紀伊半島の南西部に位置し、北は大阪府、東は奈良県と三重県、南は熊野灘に接し、西は紀伊半島を挟んで徳島県と向かい合っています。東西約94km、南北約106kmに及び、総面積は4,726km<sup>2</sup>で、国土の1.25%を占めています。

### (2) 和歌山県の地勢

本県は古くから「紀(木)の国」と云われ、面積の大部分は紀伊山系を中心とする1,000m前後

の山岳地帯で、高野山、那智山など古代から親しまれた山々が多くあります。河川のほとんどは、これらの諸山脈に源を発し、流域をうるおして紀伊水道及び熊野灘に注いでいます。また、比較的傾斜の急な山が多く、河川においても急勾配で洪水や土砂災害が起こりやすい地形です。海岸線は総延長約650kmに及ぶリアス式海岸で、とりわけ潮岬を中心とした県南部の海岸は、黒潮に洗われ景勝に富んでいます。

気候は、北部は日照時間が長く降水量が少ない瀬戸内気候区で、南部は黒潮の影響を受けて温暖な南海気候区に属し、日本有数の多雨地帯です。

## 2. 自己紹介

私は、平成23年度から県南部にある西牟婁建設部に配属となり、主に河川、砂防事業に係る業務を担当することになりました。23年度と言えば、近畿地方に甚大な被害をもたらした「紀伊半島大水害」の発生した年度であり、私も災害復旧担当として、災害査定から復旧工事の発注、また復旧工事の監督を担当させていただきました。激甚法の指定を受けた災害であり、被災個所が多く、業務量が膨大で大変でしたが、災害復旧事業に関して非常に貴重な経験を積むことができたと感じています。今年の4月からは本庁の河川課防災班に配属となり、県の災害復旧のとりまとめ業務に携わっています。査定時に査定官や立会官から和歌山県としての見解を聞かれる立場となり、自分の未熟さを思い知るとともに、奥の深い災害復旧事業について、日々勉強をさせていただいています。



会員だより

3. 和歌山県の近年の災害

(1) 台風12号（平成23年）

台風が大型で動きが遅かったため、台風周辺の湿った空気が長時間にわたって流れ込み、西日本から北日本にかけて、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨となりました。本県では、8月30日17時から9月5日6時までの総降水量が広い範囲で1,000mmを超え、田辺市下川上地内の大杉観測所では1,998mmとなり、記録的な大雨となりました。また、人的被害については、死者56名、行方不明者5名に上りました。

県管理施設の被災箇所は、1,181箇所、査定決定額36,855百万円に上る甚大な災害となりましたが、災害から約3年が経過し、公共土木施設被災箇所の98.8%の復旧が完了しました。



写真－1 23年災 県道田辺龍神線の被災状況（延長約100mに渡って崩落し全面通行止となった）



写真－2 23年災 那智川のはん濫後の状況（土石流により河道閉塞が発生し甚大な被害となった）

(2) 台風18号（平成25年）

台風周辺の雨雲や湿った空気が次々と流れ込み、山地を中心に大雨となりました。本県では、9月14日21時から16日11時までの総降水量は、新宮市高田地内の高田観測所で624mmを記録しました。

県管理施設の被災箇所は、213箇所、査定決定額3,248百万円に上りました。現在も被災箇所の一日も早い復旧に向け全力で取り組んでいるところです。

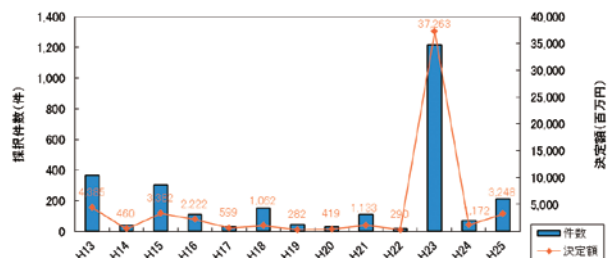


写真－3 25年災 国道370号の被災状況（法面崩壊により土砂が道路を塞いだ）



写真－4 25年災 市道広井原三又線の被災状況（護岸浸食により道路が崩壊した）

災害復旧事業の推移（和歌山県）



## 会員だより

### 4. 和歌山県について

ここで、和歌山県のPRをちょっとだけさせていただきます。

本県には平成16年に世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」があります。「紀伊山地の霊場と参詣道」は、三重、奈良、和歌山の三県にまたがる「山岳霊場（吉野・大峯、熊野三山、高野山）」と「参詣道（熊野参詣道、大峯奥駈道、高野山町石道）」、及び周囲を取り巻く「文化的景観」が主役であり、世界でも類を見ない資産として価値の高いものです。その中でも、本県には、ミシュラングリーンガイドで三つ星（★★★）箇所として紹介されている高野山、熊野古道、那智の滝、大門坂等の見どころが沢山あります。三つ星は、「わざわざ旅行する価値がある」箇所とされており、紀伊山地のすばらしい景観をご覧くださいと思います。

今年是世界遺産登録10周年となっており、記念イベント等も予定されていますので、是非和歌山県へ「わざわざ旅行」していただきたいと思います。

また、平成27年に、わが国最大かつ最高のスポーツの祭典である国民体育大会が、本県で開催されます。

国体は、半世紀に一度のビッグ・スポーツイベントであり、本県においては、昭和46年の第26回



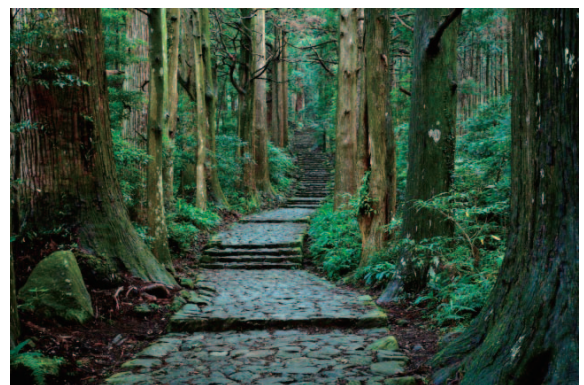
写真－5 高野山  
嶽弁天からの根本大塔



写真－6 那智の滝  
日本三名瀑のひとつで、滝の落差133mは日本一



写真－7 熊野古道  
神仏習合の聖地「熊野三山」を巡礼するために開かれた参詣道



写真－8 大門坂  
熊野那智大社へ約640mの石畳の階段が続く

写真－5、6、7、8 提供：(公社)和歌山県観光連盟

**会 員 だ よ り**

の黒潮国体以来、44年ぶりの開催となります。国体の開催を起爆剤として、和歌山県の文化の振興など県勢発展に大きな遺産となるよう、さらには自信と誇りに満ちた「元気な和歌山」の実現に繋がるよう、総力をあげて取り組んでいるところで

**5. さいごに**

近年、大規模災害等が多く発生し、災害復旧事業の果たす役割が益々大きくなってきています。本県でも平成23年、平成25年と大きな災害を経験

し、一日も早い復旧、復興に向け、全力で取り組んでいるところです。今後も、被災箇所の早期復旧、また災害に強い県土づくりを進め、県民の安全・安心を図っていけるよう努力していく所存です。

さいごに、本県で発生した災害に関し、災害査定や事業を進めるうえで、ご指導、ご協力いただきました国土交通省や財務省の方々、また紀伊半島大水害に係る災害復旧において応援をいただきました、関西広域連合、九州地方知事会職員の方々に対し、この場をお借りしてお礼申し上げます。

